

大凡人間一生或は死後をたふさず思ひて身一奉重  
公儀の回の所按守り初て我より上なる人小徳眼  
親族着席小志たしく我の諸業を怠りなく内公を  
神佛と信敬と仁義禮智信の五常と守り  
人を自然と天道の叶はぬ福の来りき  
然る當國の古より造部の惣しき小の  
到りし水山にて又首の多分左良も  
道にたふ成りし多分左良も人の秘し

持たまふ葦物籠より海苔を信りしと云て世系是の  
先年山奥の公行遠のちりし

公儀重幸即収合民間小印御親族と申すと  
紀世分々前卒の書信を以て後卒の儀と申すと  
五孫の信々の為不写あり御之重者之 午時  
文化六丁六月及辛七廻忌也今日写之終

栞林高主人

善物館序

移り行く世にこそ善物のほせありて後人の跡を  
まづわきて蘆生ハ昔の筆一枚の月小五十年乃  
成る善物の悟り年家二十余年に於て筆の善を  
西海一朝の彼小光ハ家小明和ハ印の善なり  
寛政ニ於てより飛騨國の人を親やうありて  
あつて一炊の善をせよとて其の善の善を  
流やと善の善やかとてとるにあらざる

第物體一號于九年一月九日書記而已

...

...

...

...

...

...

夏物御巻之目録

- 一 玉床永田園遊列御捨地之事
- 一 遊列由之部之御事
- 一 地味方石壁百地敷公根下之事
- 一 山内定正位新叙之事
- 一 山内之若圃之事
- 一 山内之御事
- 一 地味方石壁之事

一 九九八年賀正刺五事——  
朱點方

一 川年分地打二五出事——

一 為在者由方月及英新事——

一 台切苦地取事——

一 打毀也出修味事——

一 古月所友奇常偏事——

公家系出國整未形列中檢地事

形列國至金森寺殿天正辛酉元禄中身之当一國

領已たるも本日形列神山在國整其後一形列所

卜有丁室東市殿代件宗中主印殿出史記古如多時不

元禄七年平高國所檢地此列大垣城巨戸由是正心殿

此作列所檢地此檢方大勢也越主志守原性名

志養列中森仁清大森の北岸市左乃日檢过又虎

大自附行老集史文 中檢地奉り内夜五乃 次田角左

中函表為 伴之表 其回市為 早由路為 確本之表  
泣本之表 金本之表 中本之表 中本之表 富本之表  
山口本之表 市本之表 白本之表 森本之表 川本之表  
上本之表 富本之表 森本之表 森本之表 森本之表  
軍本之表 森本之表 森本之表 森本之表 森本之表  
元本之表 日金本之表 森本之表 森本之表 森本之表  
森本之表 森本之表 森本之表 森本之表 森本之表

一言之表 公本之表 森本之表 森本之表  
森本之表 森本之表 森本之表 森本之表  
森本之表 森本之表 森本之表 森本之表

九子部 九子部 九子部 九子部

九部 九部 九部 九部

四 五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

一 五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

四 五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

一 五子部 五子部 五子部 五子部

五部 五部 五部 五部

五部 五部 五部 五部

上  
善部  
九部

四  
七部  
九部

三  
七部  
九部